

第 14 次 第 1 回 苫小牧市廃棄物減量等推進審議会 会議録

日 時 : 令和3年7月16日(金) 14:00~15:30

会 場 : 市役所9階 議会大会議室

出席委員 : 栗山会長、平野副会長、阿部委員、榎本委員、遠藤委員、緒方委員
(計16名) 川上委員、後藤委員、今野委員、佐藤(咲)委員、佐藤(一)委員、鈴木委員
細部委員、堀江委員、嶺野委員、山川委員

会 議 録 :

(事務局)

皆様、お忙しい中ご出席をいただきましてありがとうございます。

本日は、委員17名中16名の委員に出席をいただいております。「苫小牧市廃棄物の処理及び清掃に関する条例」及び「同施行規則」に定める開催要件を満たしております。

それでは、ただいまから、第14次第1回苫小牧市廃棄物減量等推進審議会を開催いたします。

私は本日の審議会の進行を務めさせていただきます。環境衛生部ゼロごみ推進課長の倉持でございます。よろしくお願いいたします。

なお、松崎委員につきましては、本日、所用により欠席とのご連絡をいただいていることをご報告します。

今年度は、審議会委員の改選期に当たりますので、委嘱状の交付を本来であれば、市長から直接お渡しさせていただくところではありますが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、事前に皆さんの席上に配布させていただいておりますことをご了承願います。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、市長からご挨拶申し上げます。

(市長)

今も説明ありましたが、本来であれば一人ひとりに委嘱状を交付させていただかなければならないところではありますが、コロナの関係で略式で失礼いたしますこととお詫び申し上げたいと思います。

第1回目の審議会ということでございまして、皆様方にはご苦勞お掛けすることになりますが、まずはよろしくお願いいたしますと思います。

昨年からのコロナ禍で生活様式の変化があるなかで、苫小牧市の家庭ごみの排出についても例年とは若干変わってきている状況でございます。事業系のごみも含めて、もう少し状況の様子を見なければいけないと思います。

市長として4期目の最後の1年になりますが、15年前に最初の大作戦のテーマとして取り上げたのが、ごみの問題でございました。大作戦というのは3つのコンセプトがあって、1つ目は市政の重要テーマであること、2つ目はまちぐるみで取り組んでいこうということ、3つ目に1年間チャレンジをしようというのが大作戦のコンセプトであります。ごみの問題では15年前にごみの減量・リサイクルの推進・まちの環境美化という3つの目標を掲げて今日まで「053大作戦」は5回のステージを行ってきました。

人口が10万人以上の市の中でリサイクル率が最下位でしたが、多くの市民の皆さんにご理解をいただいで、今では7年連続トップであります。

ごみの減量も一昨年は1人1日当たりの家庭ごみの量が550gでしたが、コロナの影響で昨年は574gでして、今年の数値も若干心配でございます。何とかして1人1日520gという目標を皆さんの知恵を絞って達成していきたいなと思っておりますし、リサイクル率についても令和6年度の

目標値33%を達成するという目標を持っておりますので、そこに向けて今までとは同じような取組ではなく、新しい取組を市民の皆さんと一緒にやっていく必要があるのかどうかということについても、是非ご意見を聞かせていただければと思います。

私自身の思いとしては、効率的で効果的でかつローコストなごみ処理の仕組みやシステムを次の世代にどうやって渡していけるのかということが、一番の関心事でごみの問題と向き合っているわけでございます。皆さんのご意見をいただいて、市政のオペレーションに反映させていきたいという風に考えておりますので、何卒重ねてよろしくお願い申し上げます。冒頭のご挨拶にかえさせていただきます。

(事務局)

ありがとうございました。

大変申し訳ございませんが、市長は、この後、他の公務がございますので、ここで退席させていただきます。

<市長退席>

(事務局)

審議に先立ちまして、本日ご出席の委員の皆様にご挨拶をしたいと思います。

私の方から、お名前をお呼びしますので、お手元のマイクの赤いランプが点灯しましたら、一言ずつお願いいたします。

それでは、阿部勲委員から、お願いいたします。

<委員の自己紹介>

(事務局)

次に、事務局の紹介をさせていただきます。

<事務局の紹介>

(事務局)

次に、審議会の会長及び副会長の選出についてお諮りいたします。

「施行規則」第13条第1項の規定により、「審議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により選出する」ことになっておりますが、選出の方法につきまして、ご提案はございませんでしょうか。

<事務局一任>との声

(事務局)

事務局一任という声がありましたので、事務局の方で提案させていただきたいと思っております。

会長には、栗山委員をお願いしたいと思います。また、副会長には、平野委員をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

<異議なし>との声

(事務局)

それでは、会長を栗山委員、副会長を平野委員にお願いしたいと思います。
恐れ入りますが、栗山会長は会長席へ移動をお願いします。

＜栗山会長が会長席へ移動＞

(事務局)

この審議会について、お手元の資料1に沿って補足説明させていただきます。

＜苫小牧市廃棄物減量等推進審議会について説明＞（資料1）

(事務局)

以降の議事進行につきましては、栗山会長にお願いいたします。

(会長)

それでは、次第に従いまして審議会を進めさせていただきます。本日の審議会は、概ね1時間程度と考えておりますので、議事進行へのご協力の程、よろしくをお願いします。

それでは、報告（1）苫小牧市一般廃棄物処理基本計画【改定版】と報告（2）ごみ量とリサイクル率の推移について、事務局から一括で説明をお願いします。

＜苫小牧市一般廃棄物処理基本計画【改定版】について説明＞（資料2）

＜ごみ量とリサイクル率の推移について説明＞（資料3）

(会長)

ただ今の報告については、よろしいでしょうか。

続きまして、議題（1）今後のごみ減量に向けてですが、まずは事務局からこれまでの取組について、説明をお願いします。

＜今後のごみ減量に向けてを説明＞（議題1）

(会長)

ただ今の説明について、ご質問などはございませんか。

第1回目の審議会ということですので、委員の皆様からごみ減量化についてご意見やご提案を伺いたしたいと思います。

それでは、A委員の方からお願いいたします。

(A委員)

自分が住んでいる地域では戸別収集を行っているが、戸別収集は集団回収よりも人手や回収に時間が掛かってしまう。しかし、集団回収だと誰が排出しているか分からないため、マナーの悪さが目立っていると考えている。今後、市内全域で戸別収集を開始する予定だったと思うがどう考えているか。

(事務局)

戸別収集については仰る通り人手や時間が掛かってしまいます。今の時点では全市に拡大というのはすぐにはならないと考えていますが、戸別収集を導入している地区に関しては、ごみの量が減っていることや排出場所の周辺が綺麗になっていることがあります。そういった点も含めて判断していこうと考えています。

(会長)

ありがとうございます。他にございませんか。続きまして、B委員お願いいたします。

(B委員)

主婦の立場からになるが、3きり運動については大事な事業だと考えている。他の周知方法なども活用してはどうか。例えば、他市ではひとしぼり運動についてのキャッチフレーズが作られていたりしている。

また、プラスチックについてもビニール袋が有料になったり、紙ストローになったりしていて、SDGsの部分に繋がってくるので、コロナの影響で難しいと思うが、プラスチック削減に向けた取組も行ってほしいと考えているのでよろしくお願いします。

(会長)

ありがとうございます。事務局よりお願いします。

(事務局)

3きり運動についてですが、以前は各自治体が「愛のひとしぼり運動」などといった色々な名前で事業を行っていました。苫小牧市としても、4Rの中でもリフューズを進めていかなければいけないと思いますので、まずはごみに関しては「お断りする」「出さないようにする」ということ含めて、生ごみでしたら「水を切る」など引き続き苫小牧市の方でも発信していきたいと思います。

プラスチックについてですが、会議で飲料水などを用意しないとといった取組を行っていきたく考えています。

今後もそういったご意見も頂きながら、ごみの減量に努めて参ります。

(会長)

ありがとうございます。他にございませんか。続きまして、C委員お願いいたします。

(C委員)

審議会の資料で使用する紙については再生紙にするなどの取組も一つの手段だが、そもそも紙の資料でいいのかだったり、タブレット端末を使用したりすることも今後青年会議所や審議会などで考えていかなければいけないと思う。

(栗山会長)

ありがとうございます。事務局よりお願いします。

(事務局)

事業系の話で言いますと、紙ごみが最も多い形になっております。一般廃棄物という区分で言うと、事業系の紙ごみも燃やせるごみとして沼ノ端クリーンセンターに搬入されると、燃やすしかありません。

これまで事業系の紙ごみを減らすために色々な取組を行ってきております。審議会の資料について

もメールで送付させていただくなど対応しております。どれだけ紙の量に差がでてくるか分からない部分ではありますが、色々な工夫をしていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

(会長)

ありがとうございます。他にございませんか。事務局よりお願いします。

(事務局)

ペーパーレスの関係ですが、市役所全体で見るとかなりの審議会がございますので、将来的にはなりますがタブレット端末を苫小牧市のほうで用意して審議会の場で活用していただくことも検討しなければいけないと思っておりますので、審議会だけではなく市全体として検討したいと思っております。

(会長)

ありがとうございます。他にございませんか。続きまして、D委員お願いいたします。

(D委員)

私の周りではリサイクルの取組として、ダンボールをじゅんかんコンビニなどに持っていつている方が多い。

ごみの分別に関して分からない人が結構いて、たまに指導も行っているが、何でも燃やせるごみに捨ててしまっている。

今回ごみ分別アプリというのを初めて聞いて、携帯で簡単に検索できるので分別の周知方法として効果的だと感じた。

(会長)

ありがとうございます。事務局よりお願いします。

(事務局)

ごみ分別アプリは令和2年10月から苫小牧市のごみ分別アプリとして導入させていただきました。アプリの内容としてはごみの収集日を確認できたり、ごみの分別表やじゅんかんコンビニなどの拠点回収場所も地図で確認できるようになっております。しかし、アプリの導入率については5%を目標にしていますが3%程度となっているので、委員の皆さんにもご家族や職場の方に周知していただければと思います。

(会長)

ありがとうございます。他にございませんか。続きまして、E委員お願いいたします。

(E委員)

ごみの減量化ということで、個人的には買い物に行く前に冷蔵庫の中身をチェックしたりして必要な物以外買わないようにしたり、マイバッグを持参している。

また、町内会でリサイクル活動が盛んに行われているので、ごみの減量化の周知が上手くいっていると思う。

(会長)

ありがとうございます。事務局よりお願いします。

(事務局)

色々な取組を行っていただきありがとうございます。

必要な物以外を買わないですとか、マイバッグの持参についての取組については今後進めたいと考えています。

冷蔵庫の中身チェックについては、以前は出前講座などで周知を行っていましたが、今年度は冷蔵庫の中身をチェックするようなことを今までよりも市民の皆さんに周知できるような取組を行いたいと思いますのでよろしく願いいたします。

町内会のリサイクルについては、町内会の方に出前講座に出向くことがあります。しかし、町内会やメンバーが固定されてきている部分もありますので、地域の皆さんなどに出前講座を周知していただければと思います。

(会長)

ありがとうございます。他にございませんか。続きまして、F委員お願いいたします。

(F委員)

先日、錦岡小学校で小学4年生を対象に出前講座をZ o o mで開催していただいた。

3きり運動やマイバッグの持参、ごみ分別アプリの話が出たが、ポスターに仕立てて町内会館や小中学校に掲示するのも一つの手段だと思う。

昨年度は小中学校で参観日がコロナの関係で無くなったり、PTA活動もほとんど休止状態だったが、今年度は少しずつ様子を見ながら活動していて、保護者が学校に来る機会が増えてきているのでポスターを掲示することで、保護者の目に触れれば挑戦という意味では有意義ではないかと思う。

(会長)

ありがとうございます。事務局よりお願いいたします。

(事務局)

ポスター掲示については、引き続き広報とまこまいなどを利用しながら、面白く分かりやすい表現で周知させていただきたいと思います。

Z o o mでの出前講座ですが、コロナの影響で本来のごみを直接見せながらの出前講座ができなかったため、Z o o mでの対応とさせていただきました。

また、小学校で開催する際に、低学年についてはとまチョップと一緒に体育館で運動したりとか、中学年から高学年はごみの分別について話をさせていただきました。

中学校では、主に不法投棄の話をさせていただいております。不法投棄を勉強した後に地域に出て、ごみ拾いをするといった活動を啓明中学校や勇払中学校で行っておりますので、是非申し込んでいただければなと思いますのでよろしく願いいたします。

(会長)

ありがとうございます。他にございませんか。続きまして、G委員お願いいたします。

(G委員)

職場の方では3年前から会議資料は全てペーパーレス化となっていて、パソコンもオンライン会議に対応できるよう1万台入れ替えた。

また、じゅんかんコンビニに行くとかコロナの影響で断捨離がされているのか、回収量が多く感じる。

北見市や室蘭市などに住んでいたが、資料を見る限り苫小牧市は他市に比べるとリサイクルがされていると思った。北見市は燃えるか燃えないかだし、室蘭市は分別が多すぎて市外から来た人には分

かりにくいと感じていた。

札幌市などはプラスチックの回収があるが、プラスチックの回収が札幌市とかと比べると、回収が1回少ないのではと思う。単身者と話したときにプラスチックがすぐ溜まると言っていて、燃やせるごみに混ぜて捨てることもあると思うので、この規模だったら週2回にしてもいいのではないか。

また、今年からコープさっぽろの大型店ではペットボトルを回収する機械を導入している。しかし、苫小牧市でもそうだが、むかわ町や静内店ではペットボトルが有料の市と比べると、5分の1しか回収できていない。有料の市は毎日約500本回収されているが、苫小牧市は無料で収集しているため回収量が少ないのではないかと思う。

生ごみに関することだが、コンポストの助成件数が少ないので、もう少し周知してもいいのではないか。ホームセンターでは毎日1、2件の問い合わせがあると聞いているので、広めていけば排出量が減るのではないか。コロナ禍で園芸や家庭菜園をする人が増えてきているので、需要もあると思う。

先ほどのポスターの件だが、依頼があれば掲示板に貼ることはできるし、1日1,000~2,000人が来店するのでリサイクルへの意識を向上させることができるはず。

あと、リサイクル率について、他市では令和元年度から数値が伸びている市があるが、要因は調べているのか。例えば釧路市だと18.6%から21.0%になっているので、伸びた要因が分かれば苫小牧市もリサイクル率が伸びるのではないか。

(会長)

ありがとうございます。事務局よりお願いします。

(事務局)

事業系のごみですが、この審議会含めて紙での会議の開催が多い状況です。また、昨年度はコロナでできませんでしたが、業者が沼ノ端クリーンセンターに捨てに来たごみを職員が目の前で見させていただいておりました。紙が出てきたら、上質古紙リサイクル協同組合に登録すると無料で回収してもらえますよと指導して水際対策を行ってきました。

コンポストについてですが、家庭菜園が増えてきているのもあり、昨年の申込件数が多かったです。苫小牧市ではコンポストや電動生ごみ処理機を貸し出していたが、2年前からキエーロとトラッシュファミリーを追加させていただきました。黒土に生ごみを入れると、暖かい時期だと1週間で生ごみが無くなります。北海道の気候の問題がありまして、分解や堆肥化する時期が本州と比べると少し短くなってしまっていますが、こういった新しいことを取り入れながら推進していきたいと思います。

リサイクル率の釧路市の変化についてですが、今まで釧路市では合併した町村分の数値を含めておりませんでした。昨年度にミスが発覚したため、数値が伸びたと聞いております。

(会長)

ありがとうございます。他にございませんか。続きまして、H委員お願いいたします。

(H委員)

組合では近年の紙媒体の減少により、リサイクル回収量が落ちている。資源回収のリサイクル率などを上げていくために、組合としてもどうしたらいいか課題になっていて、回収品目の拡充などを模索しながら会議を開いている。

事業所から排出される紙媒体の回収についてだが、ファイルなどに紙類が入っていてファイルから出してもらえば資源物として回収はできるが、企業によってはファイルと紙類を分別するのが手間になって一般廃棄物として排出している現状があるので、審議会を通じて改善していけたらと思う。

(会長)

ありがとうございます。事務局よりお願いいたします。

(事務局)

企業がファイルを丸ごと捨ててしまうとのことですが、企業にとっては企業秘密に関わることを安心して排出できないと思う部分もあると思います。市役所でも個人情報を扱いますので、シュレッダーにかけてしまったり燃やす方法を取ってしまう例もあります。個人情報に関わることで回収できますよと言ったり、市役所の中で言えば古紙として出せますよといったアピールがまだ足りていないと思いますので、今後一緒に行っていければと思います。

(会長)

ありがとうございます。他にございませんか。続きまして、I委員お願いいたします。

(I委員)

エクスプローラー北海道では、イオン苫小牧チアーズクラブの企画の立案・指導などを行っていて、ゼロごみ大作戦と一緒にマイバッグ推進運動、マイボトル持参運動、子供達がキエーロを推進する生ごみ担当者に任命したりと色々な活動を行ってきた。設立されてから10年以上経つが、その中で育ってきた子ども達が大人になってきて、マイバッグや分別が当たり前になってきて、成果が見えてきている。

コンポストについてだが、堆肥を作ったはいいが、畑がなかったりして使い先に困ることがある。しかし、子供達は凄く楽しんで使っているのもっとコンポストに触れる機会を設ければ、小さい頃からごみについて身に付くのではないかな。

また、他市でペットボトルを持ち込むと、10円に換金される事業を行っているとニュースで見て、リサイクルへの意識が高まっていると感心した。

町内会にも携わっていて、資源回収カレンダーにごみ分別アプリのQRコードをつけて全戸配布した。私自身もダウンロードしたが、アプリが重くてアンインストールしてしまったので、軽くしてほしい。

拓勇東町内会でタブレット端末を導入した結果、文書共有ができるなどのメリットがあったので、審議会でも導入してほしい。

(会長)

ありがとうございます。事務局よりお願いいたします。

(事務局)

子供達の次世代教育というところで言いますと、コンポストをどうするかというお話ですが、一昨年美園小学校から給食の残渣をいただき、黒土に入れて堆肥化させる事業を行いました。去年はゼロごみ大作戦の事業の一つとして、本来は学校の花壇や畑に戻す事業を行いたかったのですが、コロナの影響で行うことができませんでした。代案として、第1給食センターから給食の残渣をいただき、堆肥化したものをJFEリサイクルプラザ苫小牧の花壇に埋めました。

今後も次世代教育として、堆肥化して終わりではなく、次に繋げるリサイクルということでその先を見据えた事業を進めさせていただきたいと思います。

アプリが重かったということですが、率直な意見として受けさせていただきます。

タブレット端末については、先ほど事務局からもお話があった通り、ゼロごみ推進課としても進めさせていただきたいと思います。

(会長)

ありがとうございます。他にございませんか。J委員お願いいたします。

(J委員)

青年会議所では、5年前から会議を全て電子化することになっている。昨年からは、会議以外の資料も電子化としている。

また、ごみ有料化の際には、市民の意識が高まりごみの量が減ったが、最近は大きな変化が無い。今後はどのように啓発活動を行っていくかが重要だと感じた。昔は「ごみはごみ箱に捨てましょう」程度だったが、先ほどの学校教育だったり、ごみ収集カレンダーなどを使って深く周知できる取組を行政のほうで行えば、より効果を生むのではないかと思う。

あと、ごみを出したくて出している人はいないと思うので、ごみの処理の仕方や3きり運動など、市民に対してごみの意識を向上させるために、もっと周知の方法を広げてみてはどうか。

(会長)

ありがとうございます。事務局よりお願いいたします。

(事務局)

平成25年のごみ有料化は、苫小牧市のごみ行政の大きなターニングポイントになっております。ごみ有料化自体、賛否両論あると思います。有料化するという事は、市民負担を強いる形になります。有料化にしなくてもいいような啓発活動ができれば理想的な形ではあると思います。そのために平成19年からゼロごみ大作戦を行ってきました。

ばい捨て看板やごみ収集カレンダーなど色んな手段を用いて、市民に訴えかけていかなければいけないと思います。しかし、今後新しく何をしようかというのが壁となっていますが、先ほどの残渣の話でしたり、小学校や地域と連携してばい捨てに関する少しずつ新しい事業を行っています。

(会長)

ありがとうございます。他にございませんか。K委員お願いいたします。

(K委員)

苫小牧工業高等専門学校では遠隔授業を実施して、課題提出もオンラインでの提出とした。効果は把握していないが、今までの話を聞いていて、今後データを取っていく必要があると感じた。

家庭ごみの排出量が増えていることについて、違う視点でデータを取ってみてはどうか。例えば、年代別の排出量のデータを取って市民に周知すれば、排出量が多い層に強く訴えかけることができるのではないか。

(会長)

ありがとうございます。事務局よりお願いいたします。

(事務局)

データについては、去年はコロナの影響で実施することができませんでしたが、例年ごみの組成分析というのを行っていました。

年代別については、ごみの関心やごみの量は興味深いことですのでアンケートなどを検討していければと思います。

(会長)

ありがとうございます。他にございませんか。事務局よりお願いいたします。

(事務局)

1人1日当たりの家庭ごみの量が574gに増えたことについて、何故コロナの影響で増えたかというのを深く掘り下げていく必要があります。外出自粛を強いられているということで、テイクアウトや家の整理をすることが増えたことが影響しているのではないかと思います。背景に高齢者が増えてきていることも一つの要因だと考えていて、年代別について研究していきたいと思います。

(会長)

ありがとうございます。他にございませんか。続きまして、L委員お願いいたします。

(L委員)

学校という立場でいうと、紙のごみが多く排出される職場なのかと思う。学校は個人情報を取扱うので、扱いを誤るとかなり厳しい処分や社会から批判の声を浴びるので、教職員は扱いに臆病になってしまう。再生紙を使用してもいいとしても、本当に大丈夫なのか疑問を持たれてしまう。

例えば、こういう処理がされるので、ここに入れば大丈夫なんだと明確にしてくれると教職員からの信頼もされるのではないかと思います。

(会長)

ありがとうございます。事務局よりお願いいたします。

(事務局)

紙を回収している業者と話をして、どこまでそういった話ができるかということを考えていきたいと思います。

(会長)

ありがとうございます。他にございませんか。続きまして、M委員お願いいたします。

(M委員)

ごみを捨てるのに、ごみになる袋に入れて捨てるのは矛盾だと感じるし、ごみを減らす会議なのにごみになる紙を使用して開催しているのは疑問に思う。

びんに関して言えば全部同じ袋に入れているが、他市ではびんの色ごとに箱で分けて排出することで、ごみではなく有価物として扱うのが当たり前の状況になっている。

また、市民、行政、業者は三位一体だと思うが、どこに力を入れていくのか。市民にだけごみを減らすことを訴えても減量は無理だし、産業廃棄物もSDGsの絡みでどうやって有価物を増やしていくかが課題になっている。それぞれのポイントを聞いていかなければいけないと思う。

生ごみの含水率について、主婦の方は知恵を持っているので脱水コンテストを開催して、市民に供給するなどのアイデアを駆使しないと難しいのではないかと。

(会長)

ありがとうございます。事務局よりお願いいたします。

(事務局)

びんの問題ですが、容リ協会からも毎年びんの種類を分けて回収してほしいと依頼もありますが、

収集のコストが多く掛かってしまいます。しかし、他市の施策も参考にし、ローコストな方法を研究していきたいと思います。

コンテストについてですが、脱水コンテストに近い動画のコンテストを考えていますので、今の意見を参考にさせていただきながら進めていきたいと思います。

(会長)

ありがとうございます。他にございませんか。事務局よりお願いいたします。

(事務局)

ごみの分別ですが、苫小牧市と違って細かく分別したり、大雑把な市もございます。その中で苫小牧市は分別が進んでいると思います。

ごみを出す市民、ごみを集める行政、選別する業者について、どこに重点をおいてリサイクルするかということですが、バランスよく市民に分別に協力いただき、選別する業者でしっかり分別してリサイクルできるものはリサイクルするというシステムを取らせていただいております。しかし、燃やせるごみの中にはリサイクルできるものがありますので、今後資源物として分別させていくことが課題だと感じております。

(会長)

ありがとうございます。他にございませんか。続きまして、N委員お願いいたします。

(N委員)

消費者協会の取組として、コンポストが始まったときに学習会を行ったり、マイバッグ持参運動の際も手作りでマイバッグを作ったり、ごみ分別の学習会を行った。コロナでマスク生活が始まった際には、マスクを手作りすることでごみの量が減った。

また、年齢的に終活を意識していて、家の片付けが始まっている人が多い。その際にごみが排出されるが、リサイクルショップなどに持って行かず、そのまま捨てる人がいる。生協の資源回収やリサイクルできる方法を高齢者向けに周知してはどうか。

コンポストも若い人から虫が湧いて気持ち悪いといった声も聞くが、ホームセンターに虫が湧かなくなる商品が売られていたりするので、コンポストと併せて周知を行えばホームセンターの売上にも繋がるし、若い人への普及に繋がるのではないかと。

(会長)

ありがとうございます。事務局よりお願いいたします。

(事務局)

コロナ禍で緊急事態宣言や学校が休みになったりしまして、その月のごみの量がかなり多くなりました。終活においても、同様なことが起きていると思います。終活をゆっくり行いましょうといった訴えかけも一つの案ではないかと思えます。

(会長)

ありがとうございます。他にございませんか。最後にO委員お願いいたします。

(O委員)

意見はないが、東京オリンピックのボランティアの服装は全国の資源ごみからできていると聞いた。

着る機会があったが、薄くて風通しもよかったので感謝している。

(会長)

ありがとうございます。事務局よりお願いいたします。

(事務局より)

オリンピックの話に補足させていただきますが、数年前にメダルプロジェクトということで、家庭から排出された小型電子機器によって全てのメダルが作られております。苫小牧市でも市役所の1階に設置させていただいたところ、かなりの量が集まって本部にお送りさせていただきました。服装と併せて情報として提供させていただきます。

(会長)

各委員から、様々ございましたが、全体を通して事務局から何かありますか。

(事務局)

本日はたくさんのご意見ありがとうございます。ごみの減量やリサイクルの推進、まちの環境美化を進めていくためには、市民の皆さんのご協力がなければ達成できません。

全体的な社会のシステムとして、生産活動から消費活動、そして最後にごみが発生して処理します。ごみを処理するのが我々の仕事ですので一生懸命行っていますし、今後は下流のごみの処理だけでなく、上流の生産活動から消費活動を見ながら、知恵を絞ってごみの減量化を進めていきたいと考えていますので、引き続き皆さんのご協力をお願い申し上げます。

(会長)

ありがとうございました。

皆様から様々ご意見をいただきまして本当にありがとうございます。

環境保全に関しましては、条例などの規制的手法や有料などに係る経済的手法、情報提供などの教育的手法の3つをどう組み合わせるかで環境保全対策を図っていくべきと言われています。

今日は教育的手法が多く見られたのではないかと思います。また、お金があまり掛からないごみの削減対策ということで事務局の方には対策を図っていただければなと思います。

最後に、その他として何かあれば、事務局からお願いいたします。

(事務局)

次回開催につきましてご説明いたします。

次回の審議会は令和4年1月を予定しておりますが、新型コロナウイルス感染症の状況によっては書面開催とさせていただくことあるかと思えます。委員の皆様にはご理解いただきますようお願いいたします。

また、審議が必要な場合には、別に招集させていただくこともございますので、その際にもよろしくお願いいたします。

最後になりますが、何名かの委員の皆様からご指摘いただいていた、審議会の紙の減量に関してですが、メールでの資料の送付なども心掛けて参りたいと思えます。恐れ入りますが、メール対応が可能か難しいのか、どのようなやり方をすればいいのかということでアンケートをお手元にお配りしておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

(会長)

それでは、皆様のご協力もいただきまして、概ね予定通りに終わることができました。
本日の審議会は以上で終了いたします。
ご協力ありがとうございました。